

2010年ILC グローバル・アライアンス 年次総会

ILCグローバル・アライアンスの年次総会は、2010年10月25日と26日の2日間にわたり南アフリカ・ケープタウンにて開催された。

今回は、グローバル・アライアンスの共同理事長であり、ILC米国の理事長であったロバート・バトラー博士の急逝、森岡ILC日本顧問の1年後の共同理事長退任 というグローバル・アライアンスにとっての重要な転換期に当たり、グローバル・アライアンスの新組織体制や今後の活動方針についての議論が中心となった。

また、年次総会開催に併せて、「認知症のグローバル化：課題と対応」と題する国際シンポジウムを開催し、認知症の問題は世界的規模で取り組むべき最重要課題の一つであるとのメッセージを発信、「認知症のグローバル化への対応に関するケープタウン宣言」が提案された(詳細はp.18～19)。

■ ILC年次総会出席者

メンバー

● 共同議長

Dr. Monica Ferreira
南アフリカ

Baroness Sally Greengross
英国

● メンバー

Mr. Shinichi Ogami
日本

Dr. Françoise Forette
フランス

Ms. Noreen Siba
英国

Dr. Jayant Umrakar
インド

Dr. Sebastiana Kalura
南アフリカ

Dr. Lia Daichman
アルゼンチン

Mr. Martin Boekholdt
オランダ

Ms. Marieke Van Del Waal
オランダ

Dr. Sara Carmel
イスラエル

Dr. Mary Ann Tsao
シンガポール

Ms. Angelique Chan
シンガポール

Ms. Mala Manap
シンガポール

Dr. Masako Osako
事務局

オブザーバー

Dr. Bernard Forette
フランス

Dr. David Matchar
シンガポール

欠席

アメリカ、ドミニカ共和国、チェコ共和国

■ 第1日 2010年10月25日 9:00～17:00

1. 議長の開会挨拶

2. バトラー博士追悼

2010年7月4日に急性白血病により他界したバトラー博士を悼み、全員が博士との出会い、思い出を語り、ILCの創設者である偉大なる博士の遺志を継いでグローバル・アライアンスを発展させていくことを誓った。

3. 各常設委員会からの報告と委員会の在り方についての議論 常設委員会の生産性や有効性について討議の結果、以下のように委員会と担当責任国が再編された。

ウェブサイト委員会：英国

国際渉外委員会：アルゼンチン、シンガポール

財源検討委員会：オランダ

4. 各国の活動報告

ILCセンター理事長及び担当者より、各国の活動状況について報告がなされた。

また、アライアンスの活動のグローバル化を目指し、共同プロジェクト推進の必要性が強調され、テーマと担当国が決定された。

アクティブ&ヘルシー・エイジング：日本・フランス

アドボカシーと基盤整備：英国・アルゼンチン

介護問題：イスラエル・シンガポール・インド

世代間関係：英国・アルゼンチン・インド

認知症関係：南アフリカ

■ 第2日 2010年10月26日 9:00～12:00

1. 財政基盤の整備

事務局より2009～2010年のグローバル・アライアンス収支決算報告が報告され、年会費納入と支払基準について今後の方針を決定した。また、ILC米国のコロンビア大学移管に伴い、今後の事務局の機能と業務について議論が交わされた。

2. 新共同理事長の承認

グリーンクロスILC英国理事長およびフェレイラ南ア理事長が新しい共同理事長として承認された。任期は2010年10月～2013年の3年間で、2010年10月からの1年間は森岡ILC日本顧問と3人体制となることが確認された。

3. 今後の年次総会 開催予定地

2011年 9/28-9/30 オランダ(ライデン)

2012年 チェコ(プラハ) IFA総会開催時期 5/28-6/1

2013年 シンガポール